

✿ 鉢植え・庭植え共通 ✿

# 育て方の3大ポイント



桜を元気に育て、きれいな花を  
たくさん咲かせるには、  
3つの大きなポイントがあります。



軍手、スコップ、剪定ばさみなどを  
ご用意の上、お手入れを楽しみください。

## ポイント1

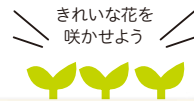
一年を通して日当たりが良く、周りに障害物がない場所で育てましょう。  
(日照6時間以上の場所での生育を推奨します。)

## ポイント2

水やりは、季節に合わせて以下の通り適宜行ってください。  
春・秋季(3~5月、10月・11月)は、1日に1回の水やりをしてください。  
特に夏季(6~9月)は、1日1~2回の水やりが必要です。(ただし日照の強い  
11時から15時は避けてください。根が腐り枯れる原因になります。)  
冬季(12~2月)は、2~3日に1回水やりをしてください。

## ポイント3

定期的に市販の栄養剤や肥料を土に与えて  
ください。



## 鉢植え・庭植え共通 季節ごとのお手入れ方法

### ✿ 害虫駆除について

アブラムシは、3~10月(特に4~6月、  
9~10月に多く発生)にかけて発生します。  
また、5~6月頃には虫(アリ、ナメクジ、  
ヨトウ虫やアメリカシロヒトリ、シャクトリ  
虫、コガネ虫の幼虫など)が発生する場  
合があります。秋季の9~10月頃には、カイ  
ガラ虫やカミキリ虫が卵を産み付けるこ  
とがあります。いずれも市販の殺虫剤で駆除  
しましょう。

### ✿ 落葉について

夏場の7~8月には夏落葉が発生するこ  
とがあります。土壤の乾燥し過ぎや栄養分  
の不足で落葉しないように適度の水やりと  
栄養剤の補給(市販のもので可)は欠かさ  
ないようにしましょう。11月は落葉時期  
です。順調に育つとこの時期に落葉し  
ます。落葉後、水やりは2~3日に1回  
程度(土を湿らせる程度)で十分です。

### ✿ エアコン使用について

エアコン使用時、室外機の熱風が苗にあ  
たると枯死します。室外機のそばへの植  
え付けは避け、鉢も置かないようにし  
ましょう。

### ✿ お手入れカレンダー

	春	夏	秋	冬
水やり				
栄養剤				
害虫駆除				
落葉				
エアコン注意				



# 鉢植えでの育て方



- 1 外の日当たりの良い場所へ置いてください。  
(注意：室内では育てないでください。また、エアコンの室外機の近くに置かないでください。)
- 2 市販の液体栄養剤を土へ挿してください。  
(注意：栄養不足で夏場に落葉することがあります。液体栄養剤と水を与えていただければ、また葉が生えてきますのでご安心ください。)
- 3 お届けした桜の苗木は6号鉢を使用しています。6号鉢のまま栽培すると根の生育が止まり枯れる要因になります。  
ご購入から1年後には7号鉢、2年後には8号鉢へ植え替えることをおすすめします。



開花から4月頃までは根が伸びる時期なので、この時期での植え替えはやめましょう。植え替えには11月中旬から1月が適しています。

## 植え替えのポイント

寒さにも比較的強い桜ですが、植え替えの際、なるべく雪や霜が鉢に入らないようにしましょう。凍害で苗が凍死します。また草などが植え替えた土に混ざらないようにしましょう。土が発酵して苗が枯死します。なお、水受け皿に水が溜まったままにしておくと根が腐るので、水受け皿に溜まった水はこまめに捨てましょう。植え替え後は栄養剤も忘れずに。



- 4 冬場に鉢から桜を取り出して枝や根を剪定後、再度同じ鉢に植え替えることで樹高を低く保つことができます。

## <枝の剪定方法>

折れた枝、曲がった枝、横にはみ出した枝など、じゃまな太い枝を根元から切るのがこの桜の剪定の基本です。



育成したい樹高より20cm低い位置で枝を切ってください。剪定後の枝の切り口に市販の殺菌剤を塗って保護しましょう。



## <根の剪定方法>

鉢のサイズに合わせて大胆に剪定できるのがこの桜の特長です。なるべく細根を残し、太根を切ってください。



根を鉢のサイズに合わせて剪定した状態。

- 5 直射日光が強い4～10月は根が暖まらないように鉢をアルミホイルで包み日光を避けるようにしましょう。また、外気温が零度以下になる場合、一時的に鉢を室内に保管しましょう。





# 庭植えでの育て方



① 水はけが良く、適度に湿り気がある肥沃な土地を選びましょう。水はけの悪い場所、地面が固い場所、養分が少ない場所などでは、植える前に良い土に入れ替える土壌改良が必要です。土壌改良には腐葉土をおすすめします。

② 十分な間隔をあけて植えましょう。植える間隔が適正であれば、大きく枝を広げ、健全に育ち、ボリューム感が出ます。大きく育てる場合は他の樹木から約10m離して、剪定しながら樹高2～3m程度の小ぶりに育てる場合は約3m離して植えると良いでしょう。

③ 苗木の植え穴は、直径約50cm、深さ約20cmを目安に掘ってください。なお、桜の根は浅く横に広がるのが特長です。根がどのように広がっていくかを想定し植える場所を決めてください。

④ 植え穴に良質な完熟堆肥を入れ、掘り出した土とよく混ぜて埋め戻すなど、土壌改良は必ず実施しましょう。

※完熟堆肥でない場合、白絹病（酸欠で根が枯れる）やナラタケ病（木に寄生して枯らす）が発生します。

⑤ 植え方（庭植え）の手順

## 1. 土壌改良を行う

- ・雨の上がった翌日も土に溜まった水が引かない湿った場所は、盛土などの排水対策が必要です。
- ・踏み固められて地面が固い場所は、直径50cm、深さ30cmの穴を掘って地面を柔らかくし、そこに園芸用土壌を入れてください。
- ・地面が固くないのに、生えている草の葉色が黄色味を帯びていたり草丈が低い場所は土の養分が不足しているのので、植える前に完熟堆肥や腐葉土を施しましょう。

## 2. 植え穴を掘る

穴は直径約50cm、深さ約20cmを目安に掘ってください。植える間隔は、大きく育てる場合は約10m、小ぶりに育てる場合は約3mです。



## 3. 植え穴に苗木を入れ、土をかける

植え替えた苗木の周りは腐葉土で充填しましょう。



## 4. 水鉢を作り、水を入れる

植え穴の周囲には水鉢を張り巡らし適量の水を与えましょう。また栄養剤も忘れずに。ワラを敷くと白絹病になったり虫が集まるのでワラは敷かず、苗の周囲をきれいに保つことをおすすめします。

